

## 2002「植村直己冒険賞」受賞者



山野井泰史



山野井妙子

東京都奥多摩町在住

### ギャチュンカン峰(7952m)の登頂に成功

#### 趣旨

「日本最強のクライマー」と呼ばれる山野井泰史さんは、K 2 (8611m)南南東リブルート無酸素単独登攀など世界のクライマーを跳ね返してきた最も難しいとされる登頂ルートをことごとく単独で初登攀に成功させてきた。そして今回選んだ難壁は、ヒマラヤの難峰ギャチュンカン峰。1999年のスロベニアチームが北壁からの初登攀に成功しており、その北東壁の新ルートを開拓したいと単独での登頂を計画していた。しかし、壁の状態が予想以上に悪いため、北壁に変更し、ヨーロッパアルプスを中心に数々の難壁登攀の実績のある妻の妙子さんとともに登攀に挑んだ。

#### 冒険内容

2002年9月16日に、ギャチュンカン峰のベースキャンプに到着。6300m、6700m、6900mと少しずつ高度を上げて高度順化を図った。10月5日にベースキャンプを出発。6日から50～60度の雪壁に岩壁が混じるルートをノーザイルで登り、7500mで露営。8日は朝からの風雪に加え妙子さんが体調不良のため登高を断念。泰史さんはそのまま登頂に挑み、午後1時30分、登頂に成功した。しかし、不穏な雲行きを察知し、30秒と経たぬまま下山を開始。妙子さんと合流し、露営。10日、妙



ベースキャンプから見たギャチュンカン北壁  
悪天の兆しだったのか、頂上には笠のような雲がかかっていた

子さんの確保で泰史さんがハーケンを打ちながら先に下降。6本しかないハーケンを妙子さんが回収しながら下った。雪崩が発生し妙子さんが吹き飛ばされた。50mのロープ一杯で止まったが、身体を強打、視力も一時失った。ロープが岩に擦れて切れかかっていることに気づいた妙子さんは、アックスとバイルを打ち込み、身体を確保。自らロープを外して泰史さんの助けを待った。それを理解した泰史さんは、ピトンを打ち、シングルロープで下降を開始。下降中、2度目の雪崩に遭い両眼を負傷した。手袋を外し、手探りでリスを探し、妙子さんの声がする方へ向かい、合流。疲労困憊した泰史さ

んを見て妙子さんが急な雪壁を掘って棚場を作り露營。11日には泰史さんの左眼は回復したが、妙子さんは両眼とも見えないまま下降。ベースキャンプまで辿り着き、体力の回復を待った。16日にカトマンズに到着。奇跡的に生還を果たしたが、二人とも手足に重度の凍傷を負った。

### 工夫、独創性

山野井泰史さんは、単独での登攀にこだわり、荷物を必要最小限の装備に抑え、かつ軽量化を図っている。酸素ボンベを使わず、少量の食糧とブドウ糖の錠剤を携帯している。

自分が自分でなくなると、スポンサーを取らずに、富士山の協力をして資金を貯めて、山登りをを行っている。



ベースキャンプで凍傷の手当をする  
山野井夫妻  
右足と両手小指・薬指凍傷は想像以上に重かった

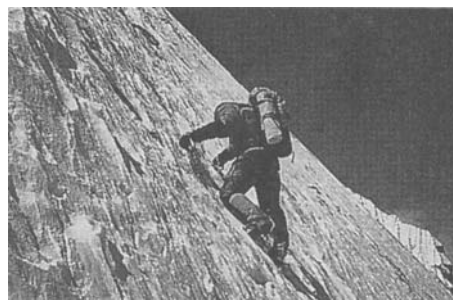
### 冒険内容

#### 〈山野井泰史〉

- 1965年 東京都小金井市に生れる
- 1987年 ドリュ西壁フレンチダイレクト単独初登（アルプス）
- 1988年 トール西壁単独初登（バフィン島）
- 1990年 フィッツロイ冬季単独初登（パタゴニア）
- 1992年 アマダブラム（6812m）西壁冬季単独初登（ネパール）
- 1994年 チョ・オユー（8201m）南西壁単独初登（中国）
- 1995年 レディース・フィンガー（5965m）南西壁単独初登（パキスタン）
- 1998年 クスムガングル東壁単独初登（ネパール）
- 2000年 K 2（8611m）南南東リブルート無酸素単独初登（パキスタン）

#### 〈山野井妙子〉

- 1956年 滋賀県神崎郡に生れる
- 1981年 マッキンリー（6194m）登頂（アメリカ）
- 1985年 コルジェネフスカヤ（7105m）登頂（パミール）
- 1991年 ブロードピーク（8054m）登頂（パキスタン）  
マカルー（8463m）無酸素登頂
- 1994年 チョ・オユー（8201m）南西壁登頂（中国）
- 1998年 クスムガングル北東壁登頂（ネパール）
- 1999年 クワンデ北東稜登頂（ネパール）



スラブの上にグズグズの雪がのった  
いやらしいミックス壁が続く

## 2002 冒険情報一覧表

	山	縦横断	海	極地	空	川	その他	計
個人活動	30	63	14	5	0	3	1	116
団体活動	54	16	9	0	0	7	1	87
合計	84	79	23	5	0	10	2	203